英語科

もっと分かりやすく伝えたい！

～相手意識をもったプレゼンテーション～

授業者：福　田　裕　大

本校英語科が捉える「教科の本質」

本校の英語科では、これからの社会の中で、生徒がよりよく生きていくために必要な力を身に付け高めていくことを教科の本質と捉えている。具体的には三つの項目が挙げられる。

(1)　国際社会を生き抜くための発信力を身に付けること
(2)　相手意識をもち、自分の言葉で思いや気持ちを表現する力
(3)　生徒それぞれの価値観や視野を広げること

（英語科教科経営案より）

目標を自分事に

評価基準	思考・判断・表現
A	留学生が「日本にずっと住んでみたい」と思うように、日本のよいところについて、相手の意向を理解しながら、プレゼンテーションすることができる。 【表現方法】 ・聞き手に質問したり、問いかけたりしながら、相手の反応に応じて話している。 ・説得力が増すように、図や表、グラフや画像などを効果的に示しながら話している。 【表現内容】 ・相手の立場に立ち、自分たちの考えを伝えている。 ・相手により分かりやすく伝わるように、具体例を挙げ、他のものと比較しながら伝えている。 ・接続詞などを使って説明を加えたり、内容と内容のまとまりを工夫したりしている。
B	留学生が「日本にずっと住んでみたい」と思うように、日本のよいところについて、プレゼンテーションすることができる。 【表現方法】 ・聞き手に問いかけながら話している。 ・図や表、グラフや画像などを用いて話している。 【表現内容】 ・自分たちの考えを述べている。 ・調査結果などから、他のものと比較しながら伝えている。 ・順序立てて、簡潔に伝えている。
C	日本のよいところについて、プレゼンテーションすることができる。 【表現方法】 ・日本よいところについて、英語で伝えている。 【表現内容】 ・内容が伝わる程度に話している。

生徒自身がイメージした「目指す姿」をシートにまとめます。「具体例を示しながら話そう」「反応に応じて伝えよう」など、生徒は目標を自分事として捉え、留学生に対してプレゼンを行います。

1回目のプレゼン

生徒はトピックに関わる質問をしたり、反応を見たりしながらプレゼンします。留学生からは「とても興味深い」「標記を英語に統一した方がいい」などアドバイスをもらいます。

2回目のプレゼン

１回目のプレゼンに修正を加えて臨んだ２回目。例えば自分たちが好きな寿司ネタを加えるなどの修正をしてプレゼンします。I don't eat sushi.と思わぬ反応があっても、I recommend tuna.と即座に反応します。相手に応じて自分たちの姿を表現できた姿でした。

Brush Up Time

留学生からのフィードバックを元に、プレゼンを再考します。プレゼンを収めた動画を視聴し、「どうしたらわかりやすく伝わるだろう？」と試行錯誤しながら、学びが深まっていきます。

授業を終えて

生徒の様子より

- 活動終了時には、留学生の前にプレゼンテーションの順番を待つ生徒の列ができていた。
- 「もう一回プレゼンテーションしたい」と話す生徒もいた。

- 左の姿は、「もっと伝えたい」という意欲の表れであると考える。
- 今回の授業では、異なる言語や文化的背景をもつ留学生とやりとりすることで、単に自分たちの考えを伝えるだけでなく、相手の求めるものや考えの違いに気付き、それに応じて伝え方を変えたり、自分の考えが深まったりする姿が見られた。そして何より共通言語である英語を用いて、意思疎通ができたことへの達成感を感じていた生徒も多かった。これらの姿が、教科の本質に迫るものであったと感じている。

（授業者　実践報告書より）